

平成 19 年度第 9 回上田中央地域協議会会議録

日 時 平成 20 年 1 月 18 日（金） 午後 1 時 30 分から 3 時 30 分
場 所 大手町会館 3 階会議室
出席委員 岡田委員、荻原委員、河野委員、栗俣委員、小林委員、田口委員、
竹内英一委員、中澤正博委員、那須野委員、箱山委員、畠中委員、
林委員、前沢委員、三吉委員、山内委員、山極委員
市側出席 浅野まちづくり協働課地域振興政策幹、小宮山まちづくり協働課課長補佐

1 開 会（浅野地域振興政策幹）

2 会長あいさつ（林会長）

当中央地域協議会としての提言をまとめまして、2 月に入りましたら、市長へ提言を申し上げるということで進めてまいりたいと思っております。

前回、前々回とブロックごとに分かれて検討を進めてきました。特に先人館につきましては、小林副会長が図書館へ通われ、調べ上げた資料をお出しいただいたところがございます。改めて御礼を申し上げます。

本日は、皆様のご意見を頂戴しながら、更に市長に対する意見書案を整理していきたいと考えております。

3 審議事項

(1) 「地域まちづくり方針」に基づく意見書（案）についての審議

（林会長）

意見書（案）を一読されていることと思いますが、事務局から意見書の内容を説明してください。

（小宮山まちづくり協働課課長補佐）

それでは私の方からご確認させていただきます。

- 意見書（案）「中心市街地の賑わいの創出と青少年に希望と誇りを与える『ふるさと上田先人館』の創設と観光事業への利活用について」 -

（浅野地域振興政策幹）

- 提供資料「明日をひらいた上田の人びと」 説明 -
- 提供資料「新潟県西蒲原郡中之口村先人館」「金沢ふるさと偉人館」 説明 -

(林会長)

今日提供されました資料等も参考にして頂き、意見書(案)の内容につきまして、ご意見がありましたらお出しください。

(畠中委員)

先人館のお話は、小林副会長さんからお聞きし、素晴らしい案だと思っております。

第二候補地の原町平林堂横の写真美術館予定地に関して、地元商店街として取り組んでいる状況をお話します。

上田市中央通り商店街振興組合は、旧郵便局からさかえや工芸さんまでの商店で構成しており、通りには池波正太郎記念館と写真美術館の予定地があります。中央交差点にもマンション構想があり、あと数日で解体されるとのことで、どうなるのかというお話もこれから出てくるかと思えます。その中で、昨年度中心市街地活性化推進委員会にも出席させていただく中で、商店街として提出させていただいた案が、「世代を超えて集える一つ屋根構想」であります。それは要するに、ただ商業として栄えるところではなく、いわゆる住環境を整備しながら住むということと、活動するということ、それから当然ものの売買ということがあるということで、以前から真田太平記念館の喫茶店は、商店街の方で経営をさせていただき、約3万人もの入館者を数えようとしております。今年は、風林火山の関係でも、入館者も増えているわけですが、商店街を通行する皆さんに入館していただきたいということで、池波正太郎という全国的ネームバリューを使わせていただきながら、その奥にある柳町への誘導というようなことも進めてまいりました。

特に空き店舗の問題につきましては、以前からご指摘ありましたように、何とかしなければということで、太平記念館の企画展も2月7日から3月27日まで空き店舗を利用して開催し、商店街も一緒に進めましょうというお話になってまいりました。

そこで、中心市街地の課題として、JT跡地のような問題もありますが、こちらの中心市街地をどうしていくか検討する中で、写真美術館用地は、これ以上そのまましておくのは非常に厳しいだろうということで、利用していったらどうかと来年度にかけまして、どのようにしたらいいのか、開発を考えていきたいと思いますという話になりました。

今日明日で会議を開くわけですが、「まちづくりふれあい事業推進会議」という会議を設けまして、真田太平記念館と中央通り振興組合と市の商工、観光、商工会議所のまちづくり推進室、できれば自治会さんにもお声掛けする中で、跡地開発並びに来年度真田太平記念館が10周年記念を迎えるものですから、そのイベント事業とどのようにハード整備、ソフト整備していくのかということで、会議を立ち上げました。

その中で私共が考えているのは、縦に細長く奥に行って広がっている土地なものですから、屋台村的なものを来年度進められればと思っております。野菜市ですとか、もともと原町自体は真田の原の方から出てきた方々によってできた商店街ということで、真田のそういった食菜と結んで、歴史的にも当然結ばれてくるという構想の中で、特に食に関しては、街中にスーパーもなくなってしまい、何を買いに行くにしても厳しい状況

ですので、とりあえずテントなど仮設的なもので、一年間 4 回のイベントを進めながら、イベント的なものと文化的なものそれから商売を満たしていこうという事業を進めていこうというものであります。

そうは言っても、美術館用地ですので、どのようにハード整備したらいいのかという話になってくるとは思いますが、投資し箱物を建設して使ってみたら、どうもうまくいかないというのでは困りますので、なるべく複合的に美術館的なものを整備したりとか、ある時はイベントに使えたり、ある時はコミュニティセンターとして使えたり、ある時は食の祭典のようなものができたりといった、色んな形で使い勝手のいい、風通しのいいものにして、そんなにお金を掛けなくて、ハード整備をしていったらいいのではないかという意見も出ています。これはまだ決まったものではないものですから、今後進めていくというお話でございます。

つきましては、真田太平記館とのリンクということ考えた時に、やはり真田というところが一つのキーかと思っておりますので、できればあそこは、ご提案いただいた地元の先人プラス全国区でお客様を呼べるような資料展示なりができればいいなということで、商店街並びに会議の中で進めていこうということになっております。どこにできたとしても、駅から上がってきていただいているお客様が、真田太平記館、柳町、中央の交差点から公園方面に行く拠点の場所になりますので、一応先程のマンション計画とも含めて複合的に中間地点でお客様を受けとめられる、またマンションもいくつかできていますので、住んでいる方も逆に定年になったら、こちらで移り住んでいただけるといようなことで、現在計画しております。

先程ここに第二候補地とありましたので、一応第二候補地に関する周辺の状況をご説明申し上げました。よろしく申し上げます。

(林会長)

私共としては、先人館の候補地として、建物自身が文化財的な要素のある石井鶴三美術館のリフォームが、第一の提案ですが、中央商店街の今のご意見も参考としていただければと思います。他に意見があれば、お出してください。

(竹内英一委員)

非常にいいアイデアだと思う。ただ場所は、特定しながら提案しなければいけないのか。場所を固定せず、こういうものを整備していこうという提案でも良いのではないか。

(林会長)

前回、前々回のグループ討議を経ながら、どのようなものが提言としていいのか、まず街中の発展策、それから住民が誇り得る多くの先人がいるということを地域の子供達にも勉強させると共に、全国に発信する拠点として、先人館を整備したらどうかという意見だった。やはり地域の方に誇りを持ってもらうとともに、街中の賑わいの創出を狙えないかという目的でまとめたものである。

(浅野地域振興政策幹)

必ずしも場所を固定化して提言する必要はない。ただ提案の中で、なるべくお金を掛けない形で、先人館を設置できたらいいなというお話があったものですから、今の段階で考えますと、ちょうど具合がいいところが、石井鶴三美術館ということで、候補として挙げさせていただいたという経過でございます。

(林会長)

表現としてこういう建物も活用してはどうか、というような意味合いでどうでしょうか。

(小林副会長)

今 100 億円以上の借金がある市の財政上から見れば、新しいものはできるはずがないわけです。将来的には、JT 跡地に総合的な文化施設をというお話も出ているが、それを待っていたら何年先の話になるかわからない。せめて近々でできるという前提で考え、石井美術館を挙げさせていただいたものである。財政状況を考えれば、今ある市の建物を最大限有効活用した方がいいと思い、一つの提案として出させていただいたものである。石井美術館の場所にこだわっているわけではない。

(浅野地域振興政策幹)

只今のご意見を踏まえまして、「候補地案として、石井鶴三美術館」としたらどうかと思いますがいかがでしょうか。

(畠中委員)

私どもの会議でも、美術館用地については、先程の竹内委員さんのような意見が出た。何も無いところからそのようなものを整備する必要があるのかという議論から始まった中で、整備する段階まではいいが、そこを複合的な面から常に人々に来ていただくものにしなければいけないということもある。

(小林副会長)

正月に萩を旅行した折、感じたことをお話ししたい。「もてなしの心」が非常に生きているということが、随所に感じられた。歴史的なものが残るあるいは商業的に盛んであるという地域を見ることが、即明日に生きるものと思う。上田市は、もてなしの心が薄いのではないかと思う。その気持ちさえあれば、どのような施設を利用しようが、まちの発展は可能であろうということを実感した。是非ここだけの話ではなく、他地域を参考事例として見てくることも、勉強ではないかと感じたので申し上げた。やり方如何だと思う。誰かが何かをやってくれるだろうと思っている間は、この街は発展しないと私は思っている。そういう意味では、まず何かをやってみるということを始めなかったら、本当の意味での上田の活性化はできないのではないかということを感じた。

(林会長)

似たような話だが、一昨年小田原城を訪ねた際に、私と同じような年代の方が二人来られて、小田原氏の生い立ちの話からいろいろと案内していただき、無料でガイドして

いただいた。その方々は歴史を勉強され、話を聞いてもらえればありがたいという気持ちでガイドしているというお話だった。上田では、無料でガイドしてくれる人がいない。旅行者が三々五々歩いているのみであり、やはりもてなしの心を育てていかなければいけないと感じた。

(林会長)

お手元の意見書(案)のとおり提案していくことでよろしいでしょうか。他にご意見ございますか。

(河野委員)

まず理屈ありきではなく、やってみることが大切ではないか。場所を特定して提言するのが一番良いのではないかと、思うところである。特定していかないと、何となくやむやになってしまうのではないかと思う。

(三吉委員)

先程畠中委員から出たが、候補地の一つとすることでどうかと思う。一つは、例えば高知県に県立の坂本竜馬記念館があるが、年間 13 万人の入場者がいる。その内の 8 割が子どもさんであり、父母は子どもに連れられてくる。その中にグッズ売り場があるが、すぐ下に桂浜があり、お土産の商店が並んでいる。そこでバッティングしてしまっている。商店の組合が商売するグッズと、記念館が販売しているグッズとある。そのため、記念館でものを売ることができない。そんなことから、昨年 9 月一番稼いでいる県立の坂本竜馬記念館を民間に公募した。民間で経営することによって、下の桂浜の商店の皆さんと一体でできるということで、そのような新しい取り組みが始まった。県や市の施設は上手くいかないと、施設を民間に公募で委託するという例が多いが、あえてそこが一番売れる場所を民間に出して、協働で一つの地域をつくっていくというものである。また、販売についても、畠中委員もおっしゃったように、商業についても効果を上げているというようなことですので、やはり複合的な設備ができる場所というのも一つの方法ではないかと思う。

もう一つは駐車場の問題である。これは外部から来る人に対して考えると、駐車場の問題は、やはり避けて通れない部分である。それと物産店である。上田の物産も一緒に販売できるような総合的な場所も、一つの条件ではないかと思う。当面この石井鶴三記念館については、それはそれでいいと思うが、やはりそういったことも踏まえ、これからの検討事項の中の一番大事な部分ではないかと思い、付け加えさせていただいた。

(竹内英一委員)

鶴三美術館でもいいとは思う。意見書のかがみに「中央地域の市街地の活性化と商業の振興を一体的かつ総合的に推進する。」とあるように、やはり多くの人に参加してもらい、総合的に進めていけるような余地を残すという意味では、場所について広く市民の声も反映しながら考えていくというように、参画できるような形もあっていいのではないかと思う。

(畠中委員)

そもそも行政の発想の中で収益性を出していくのは、非常に難しいことである。特に指定管理者制度で、民間に任せていこうということで、民間の発想を入れていかないと、運営をしていくのが難しい時代になっている。実施にあたっては、民活を生かして進めていただきたいということを意見書に付け加えていくことでどうかと思う。真田太平記館が進める部分と商店街でできることは正直違う。4年間取り組んでみて、一緒になって取り組めば、いかに相乗効果を生み、集客等につながっていくかという実例があるので、民活を前提に場所を選定していくということが、実際問題長続きすることになると思う。

(林会長)

意見書の別紙「(3) 提案事業における市民協働の推進について」の部分に、今畠中委員のおっしゃった点が表現されていると思う。あくまでも私共中央協議会が提言するわけですので、市がそれを一方的に進めるのではなく、やはりいわゆる諮問機関である地域協議会と協議しながら、市民協働の立場からこういう点で考えてくださいということが謳ってあると思う。

色々ご意見をいただいたが、まとめさせていただきたいと思う。

(浅野地域振興政策幹)

いざこの話を進める時に、(3)にあるような市民協働という一つのスタイルを我々が打出さなければならぬ。だから責任が出てくる。その辺を是非皆さんで確認していただきたい。ご自分のグループなり、ご自身が委員という立場で、こういったことを進められるかどうか。例えば「この偉人については、私が資料収集を進めます。」あるいは運営について、「何曜日は、私が館の管理をやりますよ。」というようなことで進められるのかどうか。儲ける事業ではないので、民間の方々が出る余地は、今のところはないと思う。利潤追求の施設ではない。むしろ教育と市の PR という誇らしい気持ちを養う施設なので、そういう意味で、市民主導でないともできないと思う。

(那須野委員)

検討していかなくてはいけない資料だとは思うが、女性の部でできることがあるとしたら、やってみたいと思う。お弁当持ちでご奉仕できたら、いい老後の居場所づくりができるような気がする。協働という形ならば、参画していきたい。

(栗俣委員)

小林副会長が言われたように、一步主体的に、自発的に前へ踏み出すことが大事ではないかと思う。行政とタイアップするのは当然のことであり、特に全体的な視点から、まちづくりをいい方向へもっていこうという能力は、行政が抜群である。私共は、要望、要求に終始することが多いが、これからの地方分権の中で、地域協議会が市民の幅広い声を吸収しながら、行政と協働のまちづくりをしていくという観点に立った時には、やはり委員一人一人が、行動という形で一步踏み込んでいかないと、従前のおんぶに抱っ

この行政依存の体質を抜け出すことができないのではないかと思う。現時点での意見書ですので、具体的に石井鶴三美術館の活用について、意見書として提出するのであって、私はそれが自然で当然のことだと思う。地域協議会の活動を拘束するものでもない。実際市に対しても、今までの姿勢とは違う意見が出ている。「市の支援のもと出来る限り市民協働による体制づくり」ということでもありますので、私自身も燃えることが、結果的に市の活性化につながっていくと思う。

(林会長)

私たちも3月までの任期ですので、お二人の言うように、提案した責任を持たなくてはいけない立場ですので、協働の意味を噛み締めて、お手伝いできるものならやっていきたいと思っていただければありがたいと思う。

(小宮山まちづくり協働課課長補佐)

(3)の提案事業における市民協働の推進について、先程浅野政策幹から説明がありましたが、論点としては「先人館の設置や運営については、今後地域協議会が核となって」という部分、それから「検討を重ね実施に向けて推進してまいります」ということで、あくまでも地域協議会として推進するという意見書を出すということであり、この論点についてご議論いただき、これで良いのかどうか、ご確認いただければと思います。事務局としては、「地域協議会が核となって」という部分を削除した文章ですと、二期目の委員さんに義務が課されるということとはございませんが、この辺の論点について、もう一度ご確認いただければと思います。

(那須野委員)

先程は、「地域協議会が核となって進める」ということで、ここで少しやらなければならないと思い、意見を申し上げたが、取り下げます。

もう一度この文を読んで見ると、やはり大変なことだと思う。組織で動いていくということになると、難しいのではないかと思う。もう一度考えてみたい。

(岡田委員)

今色々な意見を聞かせていただく中で、確かに「今後地域協議会が核となって」という内容は、まずここにいる委員全員が、合意しているわけではないと思う。次年度もここにいるメンバー全員が継続する確証もない。例えば歴史的人物に関わる見識のある方やご子息の方が、市内に多々いらっしゃると思う。そういった方々にも加わっていただきながら、知恵を出し合って作り上げていくという形の方が、いいのではないかと思う。

「地域協議会が核となる」という言葉は、まだこの時点では入れない方がいいのかなと感じている。

(荻原委員)

最初この案を読んだ時に、やはりこの部分が引っ掛かって、地域協議会が引き続き中心になって進めるというのは、実質とても大変なことだなと思うところである。この内容自体はいいと思うが、一体誰が中心になって責任を持ち、やはり中心になる人がいな

いと、いくら市民協働と言ってもなかなか進まないの、実際のところどうなるんだろうと漠然と疑問を持ったところである。ただ先程から、とりあえず何かやってみなければならぬということが出ておりますので、この案自体はとてもいいことだと思う。多分ここにいる何名かは、自分が関わることがあったら、関わろうと思う方もいると思うし、私自身もそう思う。市の支援と言っても、市も様々取り組んでいることから、やはり市民の側で、誰かが中心的に組織を作ったり、連絡をとったりして取り組んでいくことになると思う。地域協議会が核となるという部分について、次期委員に負わせることはできないのではないのかという気がいたします。内容的には、非常に良いと思っております。

(河野委員)

「地域協議会が核となる」という部分で、盛んに議論されているが、委員が交代すると計画が断絶してしまうのではないかと、というニュアンスに受け取れる。地域協議会が核になり引き継いでいくという形していかないと、取り組もうと思ったら、尻切れトンボになってしまい、話が進んでいけなくなる。地域協議会が核になって、この計画を推進していかないと、机上の空論で終わってしまう。「核」は核でいいと思うし、次期委員に受け継いで協議していただくという対応でいいと思う。

(栗俣委員)

私も河野委員に同感である。年末に意見書を読み、すぐ行動に移した。生涯学習上田自由塾というものがあるが、そこで上田市出身の偉人の方々の伝記をお伝えする講座を持ち、市民の皆さんに幅広く関心を持っていただこうと思い、講座の開設を申し込んだ。今日的に良いというものをクローズアップさせて、始めたいと思っている。次年度もできれば、継続していきたいと思っております。自分でできることを一つ一つ進めていきたい。

まず核になるという意識が共通部分にならないと、地域住民と行政との連携が形だけで終わってしまうと思う。核になることにより、住民と行政との橋渡しができると思う。

(田口委員)

全体的にこの文章で良いと思う。地域協議会が、上田市の将来また市民の将来に向かって、何かを起こそうという情熱、気持ちで、行動を起こそうとしている文章と理解している。地域協議会が核となってというのは、むしろそのとおりであり、そのことによって、上田市が今まで行ってこなかった市民協働により起こそうという意欲が大切ではないかなと思います。そのための地域協議会の設置でもあろうと思う。そういう意味では、地域協議会が核となって進めるべきでもあるし、そのことを具体的にどのように進めていくかということは、時間もかかる。私は何らこの文章で問題はないと思う。ここにもありますように、「体制づくりについて検討を重ね、実施に向けて推進してまいります。」となっているので、これは委員が代わろうと、地域協議会という組織は変わらないので当然なことであり、誰が委員になろうとも、この精神に基づき地域協議会が前進し

ていくべきだと考えます。

(竹内英一委員)

一般論として、継続性の面で考えた時に、例えばこういうことが課題になるならば、地域まちづくり方針だとか、色々と提言、提案をしても、それはその時の考えですよということになってしまう。ここで事務局から決意の程はどうかと改めて詰められると考えてしまうが、地域協議会は継続していきますので、書く、書かないは別として、ここで提言したことが、年度が替わったらなくなるということとはあり得ない話だと思う。誰がやるとかやらないとか皆さんの決意ということよりも、やはり地域協議会の性格として議論があったことは、引き続きそのことを推進していくという立場で考えればよいと思う。少し心配するのは、次年度このことについて作業をした時に、地域協議会がそれだけに掛かり切りになってしまうことになりはしないかということである。

他のことについても、議論しなくてはいけないし、考えなければいけないことが色々あると思う。そういった議論の広がりも進めなければならぬし、仕事量としてこれが委員の負担になってしまうこともあるのかといったことも懸念される場所である。

(中澤委員)

この内容で結構だと思う。田口委員と同意見である。

(箱山委員)

今まで委員として勉強したり、見てきた結果、こういう提言が出てきたので、これはとてもいいことだと思うし、また地域協議会が核になるという部分も、どこかが母体になっていかないと、この提言が進んでいかないので、これでいいのではないかなと思っている。地域住民を広く集めて、市民が関わっていけるような形にしていければいいと思っている。

(畠中委員)

この段階で、市民協働ができていないということになると、なかなか事業は難しいのかなという不安はある。それは進めることによって、払拭できるということはある。

地域協議会自体が、諮問機関なのか、行動機関なのか。いまだに位置づけが脆弱な中で、決断をする段階なのかという疑問は残る。

(前沢委員)

田口委員と同意見である。市民協働の観点からも、一市民としても、市民募金活動にも協力していきたいと思う。

(三吉委員)

私もこの文章を読んで全く抵抗は感じなかった。事務局から文章の内容について、これでいいのかとという確認がされた理由がよく分からない。私はこれで問題ないと思うが、事務局はどういう考えでいるのか。

(小宮山まちづくり協働課課長補佐)

先程那須野委員、栗俣委員からご意見が出たが、今のところ地域協議会の組織の機能

としては、市長の附属機関ということで、そこに提言ができるという仕組みを付加している。実際市民協働とか、市民参画に対する調査研究という部分で考えるということではあるが、運営の組織となる部分で、今のところ、地域協議会として進めることは難しいという意味合いで、ご確認させていただいたということでございます。

(浅野地域振興政策幹)

地域協議会が核になるということが第一前提で、実行部隊は当然別の組織になると思ってください。ただし、その実行組織には、委員の皆さんが個人として参加していただき、活動していただくという体制になるのではないかと思います。地域協議会が、イコール実施部隊ではないということであります。核になるのは間違いないということです。

(山内委員)

田口委員と同意見で、一般市民の参加を募り、地域協議会が核となって進めていくという形でいいと思う。

(山極委員)

資料を頂いて拝見した時に、かなり突っ込んだ表現をしてあると思います、この部分には引っ掛かっていたところである。特に全体的構成でいうと、中心市街地の賑わいの創出についての提言内容が薄い。もっと色々な議論があったと思う。具体的なことについて、2番に偏重しすぎているように感じた。もう少しここは、抑えた表現にして、今日は結論が出ないが1番の提言をもう少し膨らませた表現になれば、バランスのとれた提言書になるのではないかと思います。特に1番の賑わいの創出のところ、「生鮮食品店舗等の不足が支障をきたしています。」ということで、尻切れトンボになっているという印象を持ったところである。

(林会長)

皆さんのご意見をお聞きしたが、これでいいのではないかという意見が一番多いと感じた。

先程栗俣委員の意見にあったように、仮に委員でなくなっても、我々にご協力申し上げるというような意見もあり、田口委員のご意見に賛同する方もいた。今日的に我々は委員としてこう考えていると、この20人集団はこう考えていると、今の意見を示すことでいいのではないかと私は思う。そういう点でまとめてみたいと思います。

(浅野地域振興政策幹)

ありがとうございました。そういった皆さんの熱い気持ちが、やはり必要だなということで改めて確認させていただきました。本日いただいたご意見をもう一度集約いたしまして、修正すべきところは修正し、日程的には2月13日までに、次回の委員会を開かなければいけないというスケジュールになっています。その間に、修正案を皆様にお送りしますので、再度それをご確認いただき、委員会で決定ということにしたいと思えます。

(林会長)

今説明がありましたように、もう一度出していただきました内容を確認して、次回の会議で、最終的な決定をするという形にしたいと思っておりますので、ご了承ください。

4 その他

(林会長)

その他で事務局の方からありますか。

(小宮山まちづくり協働課課長補佐)

- 上田市都市計画マスタープラン資料 説明 -

(浅野地域振興政策幹)

- 1月12日信毎コピー「中央公民館の市民共同企画講座」 説明 -

(小宮山まちづくり協働課課長補佐)

次回予定は、2月4日から6日のあたりで、会長、副会長と相談し、早急に日程を決めさせていただきます、ご連絡申し上げます。

5 閉 会

(林会長)

本日は休憩もなく、ご検討いただき有難うございました。ご苦労様でございました。